健康福祉委員会　行政視察報告書①

1　日程

令和４年７月 21 日（木）～22 日（金）

2　視察先及び視察項目

	視　察　先	視　察　項　目
1	群馬県草津町	介護予防事業等について
2	長野県軽井沢町	介護予防事業等について

3　視察委員

○ 委員長	伊佐治　　剛	自由民主党大田区民連合
○ 副委員長	三　沢　清太郎	令和大田区議団（無所属５+維新１）
○ 委　員	塩野目　正　樹	自由民主党大田区民連合
	鈴　木　隆　之	自由民主党大田区民連合
	大　橋　武　司	大田区議会公明党
	田　島　和　雄	大田区議会公明党
	清　水　菊　美	日本共産党大田区議団
	杉　山　公　一	日本共産党大田区議団
	荻　野　　稔	東京政策フォーラム

4　視察報告

項目ごとに各会派の視察報告を記載。

（1）群馬県草津町

◆視察項目
介護予防事業等について

（自由民主党大田区民連合）
草津町は、平成13年から東京都健康長寿医療センターと共に介護予防をテーマとした研究を続けており、最初10年間の成果として健康寿命の延伸を具体的な数値として示すことができた。健康寿命の延伸は、それ以外にも要介護認定率の減少や介護保険料の減

額にもつながっている。特に介護保険料は、全国の自治体で最も安い基準月額3,300円に設定されており、視察の際、説明をして下さった町長は「介護保険を使わない方へのご褒美」と表現をされていた。それでも現状、介護保険特別会計は、給付費の不足による一般会計からの繰入れなどは行われていない。

草津町では、平成14年から「にっこり健診」という健診事業を実施しており、この中で従来の健診にプラスして運動機能、生活問診などを加え介護リスクのスクリーニングを行っている。そして、結果の説明会を実施し、グラフや評定などでわかりやすく結果を共有することにより、介護予防へのモチベーションの向上につなげている。また、草津町は65歳以上の就業者が多く、生涯現役で働き続ける方も多い。結果として、それが生きがいにもつながり、加齢による身体機能の低下に対して適度な刺激となっている点も健康寿命などの延伸、要介護認定率の低下などに影響しているといえる。

大田区でも現在、元気高齢者の就労を支える仕組みとして「いきいき仕事ステーション」の活用などを図っているが、まだまだ受け皿となる仕事が不足をしている状況もある。就労できる環境の整備は、高齢者の健康寿命の延伸という意味からも重要であるといえる。

今回の草津町の視察を受け、大田区でも生涯現役社会を実現できるよう、就労支援体制の拡充に努めていきたい。

（大田区議会公明党）

群馬県草津町における介護予防事業等について、途中まで町長自ら情熱的な口調でご説明いただきました。

草津町は言わずと知れた名湯「草津温泉」がある町で、町民が６千人に対し夜間人口は２万５千人にも達するとのことです。温泉を訪れる観光客によって夜間人口が膨らむわけですが、町民も９割が観光業に従事し、地方では一般的である農業従事者はいないという、極端な観光の町になっています。観光業は常に人手不足の業種であり、働く元気と意思があれば高齢者であっても働く場があるという環境で、高齢者にとっては常に適度な緊張がある日常のため、要介護度が高くならないのではないかとの職員の分析でした。

町が介護保険料を日本一低額に設定しているのは、町民が健康に留意しているご褒美に介護保険料を安くするという町長の考えからで、この分かりやすい還元策により、さらに町民の健康意識の向上に役立っていると思われます。ただし、町民の９割が観光業に従事しているという特徴のある自治体であることに注意が必要です。

介護予防事業の具体例を挙げれば、従来の健診に運動機能検査、生活問診を導入した「にっこり健診」を実施したり、高齢者が集う「高齢者サロ

ン」に介護予防サポーターを配置したり、外出支援策として、料金が 100 円の町内巡回バスを走らせたり、独居高齢者の希望者宅（230 軒）に月２回弁当を宅配した際に健康・生活状況を聞き取ったりするなど、多彩な事業を展開しています。

今後の課題として、保健事業と介護予防事業の一体的な実施を挙げました。保険者はこれまで健診事業にお金をかけてきたが、今後は事後事業にもお金をかけていくとのことです。施策の今後の成果についても注視していきたいと考えます。

（日本共産党大田区議団）

町長から説明していただいた「日本一安い介護保険料は町民への健康のご褒美」にまず驚かされました。

どうしてできるのか。草津町の総人口は6,069人、65歳以上2,443人、高齢化率40.18%、一人暮らし高齢者数 444 人、要介護認定率 17.1%などの数字から見ると、介護保険料を日本一安くできるのがますますわからない。しかし、産業分類別・年齢階級別就業者数において、宿泊業、飲食サービス業で 65 歳以上の就業者が 444 人、全業種では 856 人で「生涯現役」の方が多いという資料から納得しました。「65 歳以上でも働いている。人前に出る緊張感、身なりもよくする。お金も入る。健康を意識する」などにより、介護認定者は微増していても介護保険会計は日本一安い保険料でも「やっていける」ということである。今後も草津町における介護予防＝社会参加とヘルスプロモーションに注目したい。

大田区ではどうだろう。もちろん「生涯現役」で頑張りたい高齢者もたくさんいるが、産業構造の変化により、町工場や飲食店、個人事業者が減少している。熟練の技を発揮して収入を得ることができる状況が減少してきている。

フレイル予防、体操、スポーツ等を促進してきてもなじまない高齢者も多く、生き甲斐ややる気をなくしている高齢者の介護が必要になってきている。

健康面での介護予防政策を大田区は進めてきていることは評価できるが、草津町の介護予防の歩みと、人口ビジョン総合戦略も大いに参考にすべきと考える。

（令和大田区議団（無所属５+維新１））

全国的に有名な草津町の介護予防関連事業の取組について知見を深めることが出来た。

従来の健診に運動機能・生活問診を加え要介護リスクのスクリーニングを行うことで結果的に事後指導につなげていること、東京都健康高齢者センター研究所の新開省二先生の協力を得て高齢者サロンなどを設け高齢者が集まり楽しく仲間作りできる場所を確保していること等が介護予防効果を高めている模様。

しかし、それよりも住民の大半が観光業に従事する中、年配者も例外ではなく大半が働いており、外部の人々と緊張感を持って接していることが介護予防に良い作用を生み出しているとのこと、我が街を振り返りとても参考になる言葉だった。

また、黒岩信忠町長の政治手腕により国や県から様々な助成を受けていること、従来の年配の観光者だけでなく若い世代の観光者を惹きつける町づくりを推進することでインバウンドに頼らない観光客数増を実現していること、等が介護保険料引き下げに奏功していることが理解できた。

全てが大田区に一足飛びに当てはまる訳ではないが、年配者の経験を活かす取組を大田区でももっと深堀りしていきたい。

（東京政策フォーラム）

大田区議会健康福祉委員会の一日目の視察では温泉街で有名な群馬県草津町を訪れた。

人口６千人の町だが、夜間人口２万５千人、コロナで売上が一時期９割減まで減ったが８割近くまで復活。宿屋ホテルの予約サイトとして人気の「じゃらん」のランキングで箱根を抜き、観光地としてとても有名な街でもあり、観光業の従事者も多い。観光客の数は、一時期 260 万人くらいまで落ちていたが、バブル期の 300 万人を超えた。伸び率が日本トップクラス。目標は 400 万人とのことだ。

草津町の介護保険料は日本で事実上一番安い介護保険料で、一人 3,300 円。介護保険を使わないことへのご褒美として下げる、と町長は語っていた。温泉地特有の現象で、草津町から見ると町内で働いていても住所のわからない人が多い（他市町村に住む労働者)。お金が余っているのでトントンまで健康保険料を下げている。

健康づくりから介護予防へ、介護予防から健康づくりをテーマに住民の負担減、健康寿命増加、健康な方が増える事により保険料の負担を抑える仕組みだ。

観光地であるため旅館で高齢者も多く働いている。人前に晒される。身なりもしっかりして、気遣いも必要であり、適度な緊張と神経を使うことが健康寿命を延ばすといった効果もある。80 代になっても仲居さんなどで働いている人が多くいる。精神面が大事なのではないかと町側は考えている。ご褒美という表現が適切かどうかは別として、住民が常に仕事に従事し気を張っている生活は、その住民の健康維持のためには、必要なのかもしれないと考える。大田区もものづくりや商売をしている方が多い。そうした方々から見習うものが多いのではないかと思った。

（２）長野県軽井沢町

◆視察項目

介護予防事業等について

（自由民主党大田区民連合）

軽井沢町では、保健福祉総合施設である「木もれ陽の里」を視察させて頂いた。木もれ陽の里は、平成19年にオープンし健康増進部門を主体として、高齢者生活支援部門、保健予防部門、障害者支援部門、そして交流多機能部門など様々な保健福祉に関する機能を置き込んでいる。建物はデザイン性も高く、間接的な採光や交流しやすい動線の確保など、様々な点で配慮がなされていた。平成24年には公共建築賞を受賞している。

障害者支援部門では、地域活動支援センターとして就労支援の場を提供しており、ジャム用の果実の処理や使わなくなった布を活用したカバン等を作っている。

保健予防部門では、一般的な保健センターの機能と共に、信州大学と連携し認知症やフレイル予防のための軽井沢健診を実施している。

また健康増進部門においては木もれ陽の里だけでなく、町内21地区26カ所で出張講座を実施しており、こうした細やかな取り組みの結果、コロナ禍を除くと要介護認定率の上昇は抑えられていると言える。また、ハイリスク者にはリハビリ専門職がマンツーマンで支援を行うなど、個別支援の枠組みが大きな効果を示していると言える。

大田区においては、介護予防はどうしても集団的な支援が一般的で、ハイリスク者に対する個別支援の体制は十分ではないと言える。こうした軽井沢町での実例を生かしながら、大田区における介護予防事業の充実を提案していきたい。

（大田区議会公明党）

軽井沢町の健康福祉複合施設「木もれ陽の里」を視察させて頂きました。

「木もれ陽の里」は、町民の健康増進、疾病予防、リハビリや福祉などを一体とする総合的な体制を築かれ、町民の皆様の健康づくり支援に向けて保健と福祉の中心拠点として取り組みを行われており、お伺いしてまず感じることは、浅間山が一望できる美しい景観と自然の中にある環境の良さ、施設は木材を多く使用し優しさと居心地の良さ、あらゆるところに配慮を感じる工夫がされており、お聞きすると公共施設建築賞の優秀賞に輝いているとの事、とても納得できる施設と感じました。

施設内は具体的に●高齢者支援部門として生きがいと自立した豊かな生活維持を目指し「デイサービス」「ショートステイ」、●子どもから大人まで障がいのある方もそうでない方も、コミュニケーションが取れる交流多機能部門として「コミュニケーションホール」「休憩娯楽室（和室）」、●保健、介護、福祉の３分野の専門職が連携し各機関と協力して取り組まれている地域包括支援センター、●ボランティアセンター、●保健予防部門として「保健センター」「授乳室」「多目的トイレ」、●創作活動や生産的活動を提供し、社会との交流促進、地域社会への参加と社会復帰を目指しての「障害者支援施設」、

●住民の健康、生きがい、自立を目指し専門的な指導者も配置された健康増進部門として「水中運動室」「運動トレーニング室」「浴室」と、町民の皆様が「いつまでも生き生きと健康で暮らせる」ように、あらゆる配慮ある取り組みの施設に感動を致しました。

実際、見学させて頂く中で利用者の皆様が、穏やかに、楽しく、また生きがいと充実感を持ってご利用されていることが感じ取れました。

都心でこれだけの規模の施設は現実難しいとは感じますが、この度の視察を通して、区民の皆様が生きがいと、健康増進、豊かな生活がおくれることを目指して活かして参りたいと思います。

（日本共産党大田区議団）

避暑地として日本有数の町「屋根の無い病院」と言われた環境に心底うらやましく思いました。しかし、そのような環境でも、介護が必要な方、障がいをお持ちの方、高齢者の閉じこもり防止、健康増進の課題等など、町民の課題に取り組んでいる素晴らしい施設が、「木もれ陽の里」であることが視察でよくわかりました。

21 億 9,400 万円余の財政投入は大きな決断であったと想像できます。公共建築賞を受賞されたとのことですが、浅間山の絶景とともに、施策内いたるところが素敵でした。

また、箱ものだけでなく、運動プログラムはＯＴ（作業療法士)、ＰＴ（理学療法士）などの専門職が一人一人に合わせているなど、人材も豊富なことは大変評価できると思います。

さらに、高齢者の介護予防の「地域通いの場」活動などは、地域包括支援センターが雪の日でも歩いていける場所に21か所もあり様々なメニューの教室を行っているとのことでしたが、立派な複合施設を造り１か所に集中するだけでなく地域ごとにしっかりと活動場所があることは本当に大事と思いました。

信州大学、東京大学との高血圧を意識した「軽井沢検診」の今後の成果に期待します。

障害者支援部門は、ジャムの作業場、裂き織の作業場を見学しましたが、明るい作業施設と利用者さんの笑顔が大変印象的でした。地域のボランティアの皆さんが作成したバッグなどの製品もどれもこれも大変すてきでした。地域に支えられている施設であることがわかりました。

軽井沢町とは全く環境の違う大田区ですが、「いつまでもいきいきと健康で暮らせるために」今後も努力していきます。

（令和大田区議団（無所属５+維新１））

保健福祉複合施設『木もれ陽の里』を視察。

高齢者生活支援部門、保健予防部門、障害者支援部門、健康増進部門、交流多機能部門が 5,528 平米という広大な施設に同居し、相乗効果を発揮しているところが魅力的だった。

また信濃追分駅から２分という好立地に位置しており、同じく軽井沢町が推進している『すこやかお出かけ利用券』を利用することで 65 歳以上の軽井沢町民がしなの鉄道に乗って本施設を利用しやすくなっていることも大変好感が持てた。

一方、平成 19 年４月のオープンから 15 年の月日が経っており、ほぼオーダーメイドで建築したことにより修理保全等の維持費用が嵩んでいるとの事、ここら辺は既製品を随所に用いるレディメイドも否定すべきでないと感じた。

翻って大田区には同様の施設は存在するが各施設が単独で点在しているのが実情、それはそれで利点もあるため直ぐに見直す必要はないと考えるが、もし複合施設を設けるのであれば比較的土地に余裕がある臨海部公園などが候補地となるであろう。そして民間スポーツクラブ等のノウハウを活用するＰＦＩを用いることで質の高い福祉サービスを提供できるのではないかと思慮する次第である。

（東京政策フォーラム）

大田区議会健康福祉委員会、視察の二日目は長野県軽井沢町の保健福祉複合施設木もれ陽の里を視察した。一つの建物の中にデイサービス、ショートステイなどの高齢者支援施設とプール、浴室、運動場などを備えた健康増進施設をもつ複合施設だ。

軽井沢町は人口減少の社会にあって、人口が維持・増加傾向にあり、別荘などを持っていた方が、老後やまたは子育てのためなどで定住者になっている傾向もあり、定住者も社会参加してもらう必要がある。

軽井沢町の世帯 10,553 世帯、高齢化率 32%。介護給付費は年々増えており、介護人材の確保にも難がある。そのため地域の支え合いで暮らしてもらう必要があることもあり、こうした複合型の施設を通して健康予防などの側面からも介護給付費の低減に努めているとのことだ。草津町とは状況が逆ではあったが、介護予防に力を入れる点では同じ。特に、今後の日本では高齢化だけでなく、少子化や孤立化も懸念される。一人暮らしが増え、子どももいない、少ない世帯が多い。地域の力を頼ろうにも地域にも若者などの支え手がいなくなる。

高齢者の方々含め、介護が必要になるケース、必要な介護の量を減らしていくための健康維持の努力が必要となってくる社会が訪れるのだろう。